

通し番号	4967
------	------

分類番号	R01-24-12-04
------	--------------

12月まき初夏どりタマネギの新作型を開発しました

[要約] 12月中旬播種、2月中旬定植、6月中～下旬収穫の新作型を開発しました。本作型の適性品種として、中生品種‘ターザン’及び晩生品種‘もみじ3号’を選定した。‘ターザン’は、1カ月以内の短期貯蔵により、タマネギ出荷端境期の7月出荷が可能である。

神奈川県農業技術センター・生産技術部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

タマネギは周年的に需要があり、7～8月が端境期になっている。本州の春まき作型では、品種特性（光感応性）と病害発生等から秀品安定出荷が難しかった。本試験では、本県における12月まき初夏どりの新作型とその適性品種について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 中生品種‘ターザン’、晩生品種‘もみじ3号’を12月15日頃に播種、2月15日頃に定植する。露地栽培では6月下旬どりで200g程度のやや小玉になるが、トンネル被覆により地上部の成育が旺盛になり、6月中旬に250～350g以上の大玉収穫ができる（表1、表2）。
- 2 ‘ターザン’は、1カ月貯蔵後の可販率が約8割である（図1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 1月以降に播種すると、茎葉部が十分に成育する前に倒伏し、りん径の肥大不足になる。
- 2 一般的な秋まき作型に対して、圃場占有期間が11～2月の3カ月程度短縮できる。
- 3 貯蔵可能期間は、栽培方法や収穫時期の天候、貯蔵条件等によって変動する。
- 4 寒冬年が予想される場合は、保温が必要である。

[具体的データ]

表1 各試験区の収穫物特性 (2017年度)

試験区			倒伏時期 ⁷	りん茎重 (g)	球径 (cm)	球高 (cm)	球形指 数 ^w	可販率 (%)	規格外率 ^v (%)			収量 ^u (t/10a)
トンネル	マルチ	品種							分球	変形	腐敗	
PEフィルム	黒マルチ	ターザン	6月上旬	308 ±45 ^s	8.7	7.9	0.91	100	0	0	0	6.2
		もみじ3号	6月下旬	272 ±67	8.3	7.5	0.90	100	0	0	0	5.4
ユーラックカンキ ^z	黒マルチ	ターザン	6月上旬	376 ±52	9.5	8.6	0.91	95	0	5	0	7.2
		もみじ3号	6月中旬	375 ±77	9.7	8.5	0.88	50	25	10	15	3.7
ユーラックカンキ	透明マルチ	ターザン	6月上旬	370 ±103	9.0	9.5	1.06	10	10	80	0	0.7
		もみじ3号	6月上旬	411 ±93	9.7	9.5	0.98	15	30	35	40	1.2
無被覆	透明マルチ	ターザン	6月下旬	249 ±87	7.7	7.8	1.01	50	7	29	29	2.5
		もみじ3号	6月下旬	227 ±71	7.6	7.8	1.02	35	7	43	29	1.6

2018年6月19日に各区12~20株調査。^zユーラックカンキ2号を供試した。^y約8割が倒伏した時期。^x平均値±標準偏差。^w球形指数=球高/球径。^v分球に内部分球を含まず、変形に軽微な変形(B品)及び外部分球による変形を含まない(個数割合)。^u栽植本数(条間15cm, 株間15cm, 通路幅100cm, 20,020株/10a)とりん茎重, 可販率から欠株なしとして算出した。

表2 各試験区の収穫物特性 (2018年度)

試験区			倒伏時期 ⁷	りん茎重 (g)	球径 (cm)	球高 (cm)	球形指 数 ^w	可販率 (%)	規格外率 ^v (%)		収量 ^u (t/10a)
トンネル	マルチ	品種							分球 ^y	腐敗	
POフィルム	黒マルチ	ターザン	6月上旬	246 ±78 ^x	8.0	7.5	0.94	100	0	0	4.9
		もみじ3号	6月下旬	241 ±55	8.0	7.3	0.92	100	0	0	4.8
ユーラックカンキ ^z	黒マルチ	ターザン	6月上旬	342 ±85	9.1	8.3	0.91	94	3	3	6.5
		もみじ3号	6月中旬	308 ±75	8.7	8.2	0.93	94	0	6	5.8
無被覆	黒マルチ	ターザン	6月下旬	206 ±69	7.5	6.8	0.91	89	0	11	3.7
		もみじ3号	6月下旬	200 ±81	7.4	6.8	0.92	97	0	3	3.9

2019年6月25日, 26日に各区18株2反復について調査。^zユーラックカンキ2号を供試した。^y約8割が倒伏した時期。^x平均値±標準偏差。^w球形指数=球高/球径。^v分球に内部分球を含まない(個数割合)。^u栽植本数(条間15cm, 株間15cm, 通路幅100cm, 20,020株/10a)とりん茎重, 可販率から欠株なしとして算出した。

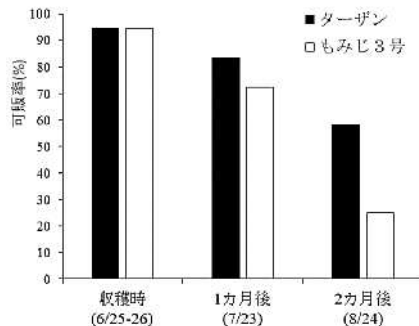


図1 収穫時及び貯蔵中の可販率
(2018年度 ユーラックカンキ区)



図2 2か月貯蔵後の外観及び縦断面 (2019年8月24日)
(図中の白棒は20cmを示す)

- [資料名] 平成27~令和元年度試験研究成績書
- [研究課題名] 冬春まき初夏どりタマネギの新作型開発
- [研究期間] 2015(平成27)年度~2018(平成30)年度
- [研究者担当名] 高田敦之、小勝淑弘
- [協力・分担関係]